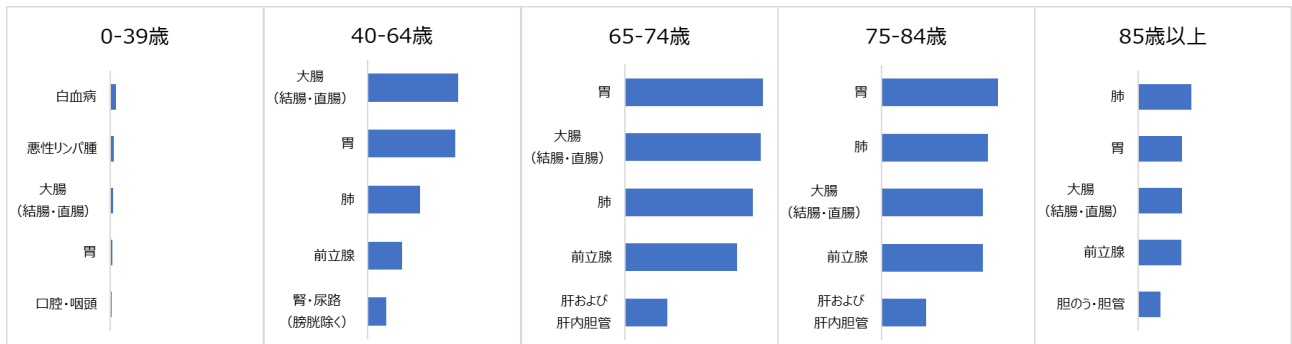
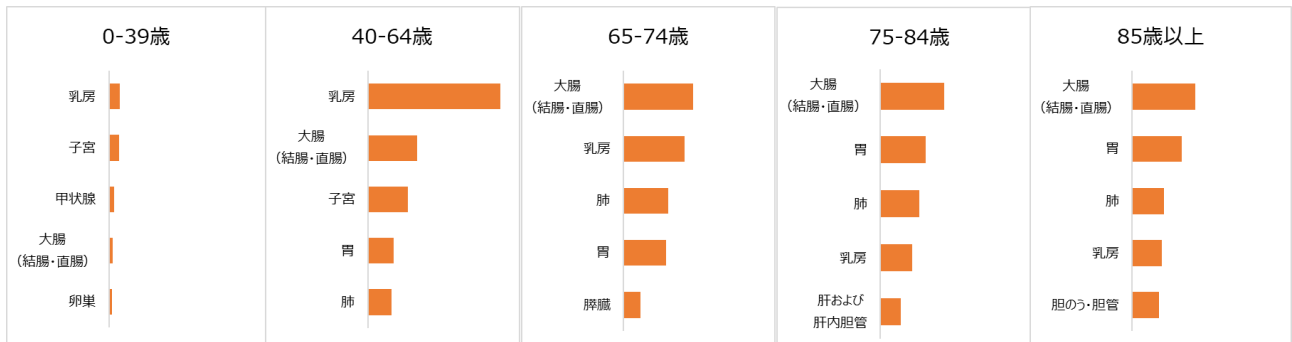


# 全国がん登録から見た鳥取県のがん罹患の現状（2016年）

## 年齢区分別上位5部位（男性）



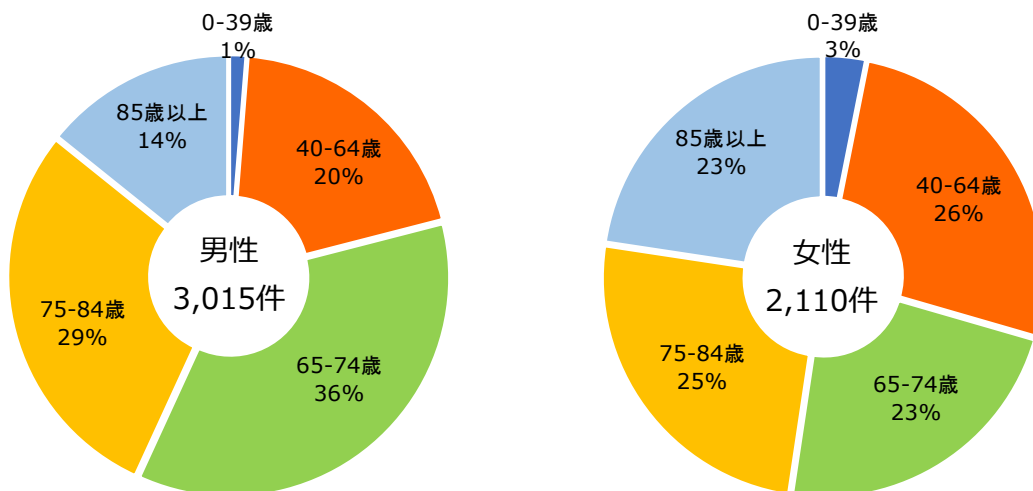
## 年齢区分別上位5部位（女性）



男性の0-39歳代では、白血病が最も多く、次いで悪性リンパ腫、大腸、胃、口腔・咽頭。40-64歳代では、大腸が最も多く、次いで胃、肺、前立腺、腎・尿路の順であった。65-74歳代では、胃、大腸、肺、前立腺がおしなべて多く、次いで肝、75-84歳代でも、胃、肺、大腸、前立腺がおしなべて多く、次いで肝、85歳以上では、肺が最も多く、次いで胃、大腸、前立腺、胆のう・胆管の順。

女性の0-39歳代では、乳房と子宮が最も多く、次いで甲状腺、大腸、卵巣の順。40-64歳代では、乳房が最も多く、次いで大腸、子宮、胃、肺、65-74歳代では、大腸が最も多く、次いで乳房、肺、胃、膵臓、75-84歳代でも大腸が最も多く、次いで胃、肺、乳房、肝、85歳以上では、大腸が最も多く、次いで胃、肺、乳房、胆のう・胆管の順。

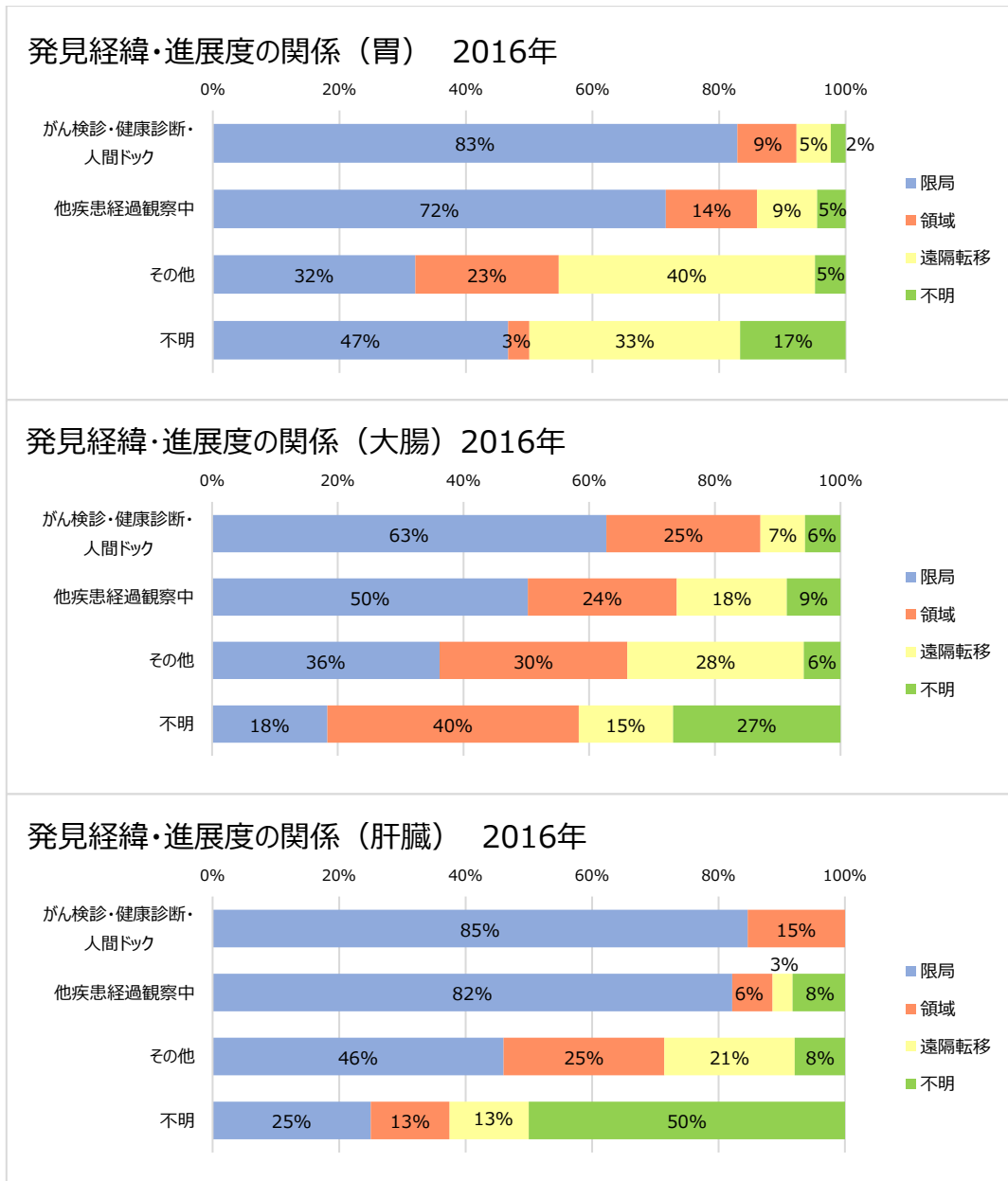
## 年齢5区分割合（%）



## 発見経緯と進行度の関係から、がん検診・人間ドック・健康診断などのがん予防効果の疫学的検証

ほとんどの部位でがん検診・人間ドック・健康診断などによるがん発見例において、いわゆる早期がんに相当する限局割合が多く、遠隔転移の割合が少ないことが認められています。

肝臓においては、他疾患経過観察中による発見例が65%と多いですが、その進展度も限局割合が85%と最も高い値を認めています。いずれにしてもがん検診・人間ドック・健康診断などを受診する方が早期発見・早期治療によるがん予防が期待できます。

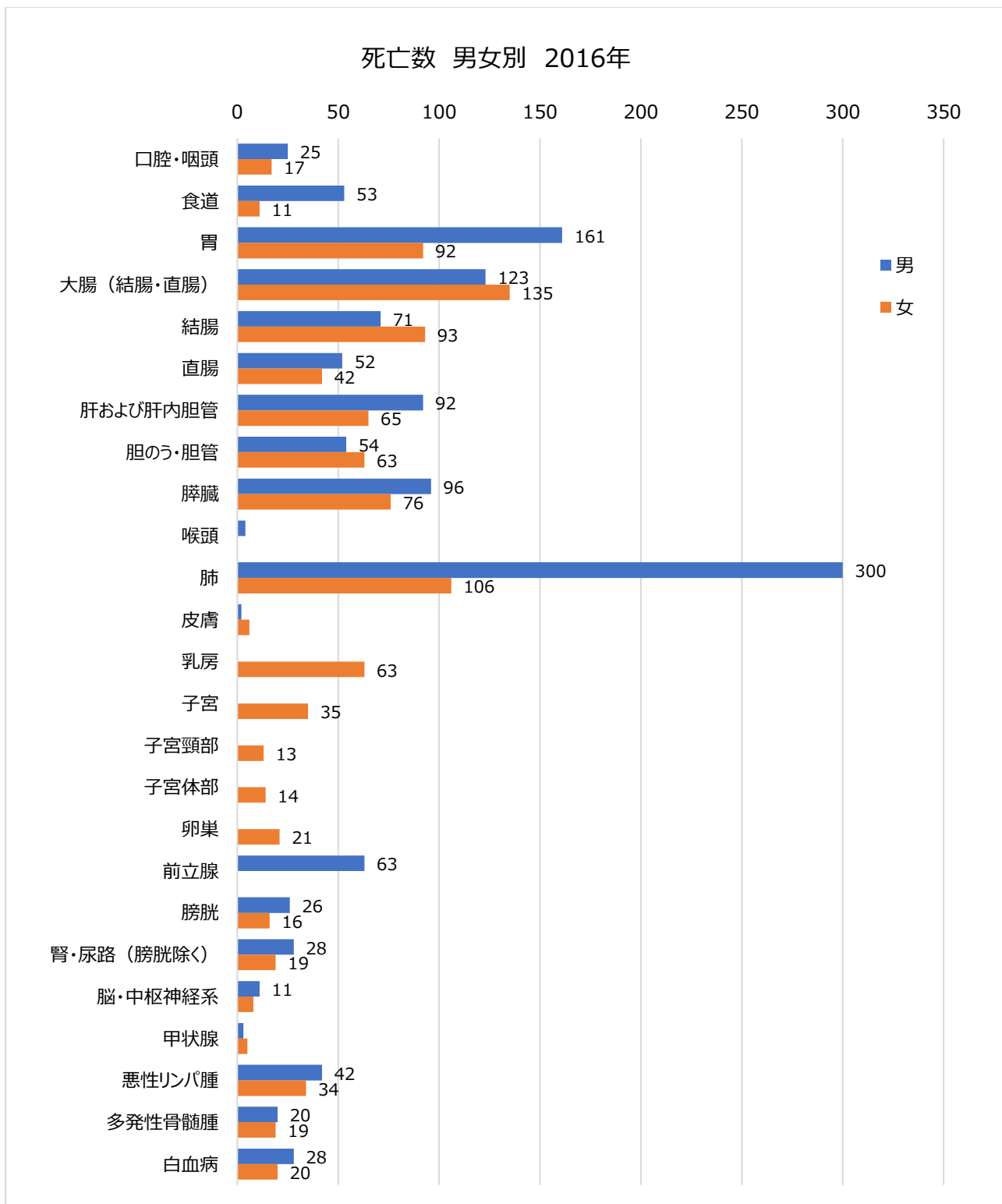


\* 参考資料 \*

死亡統計から見た鳥取県のがん死亡数の現状

鳥取県において、がんを原因として死亡した者の数は、男性1,180人、女性855人、合計2,035人となっている。

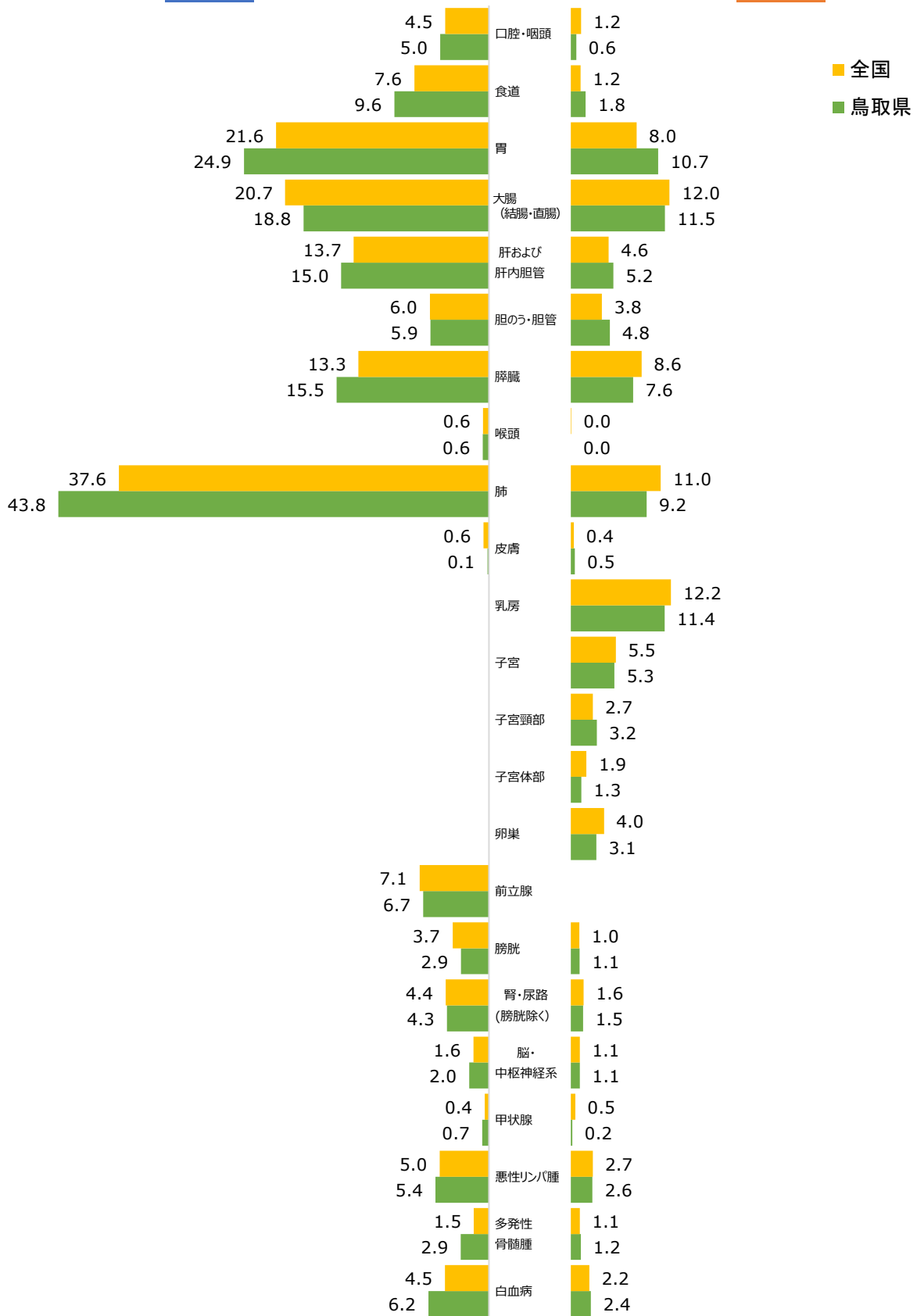
部位別には、男性は肺（300人、25.4%）が最も多く、次いで胃（161人、13.6%）、大腸（123人、10.4%）の順となっている。また、女性では大腸（135人、15.8%）が最も多く、次いで肺（106人、12.4%）、胃（92人、10.8%）、膵臓（76人、8.9%）の順となっている。



# 年齢調整死亡率 全国比較 2016年

男性

女性



臨床進行度別 5年相対生存率 (%) (30例未満の部位項目は削除)

